



ドイツ マイスター証書 (1989年取得)

社名『Gross』とは、正確にはドイツ語によって『GROß』と綴られ、『大きい』や『凄い』などを意味します。

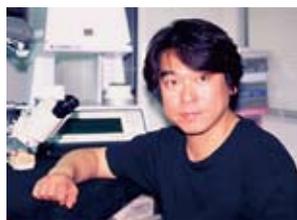
小さな歯を人の手によって創造し、歯科医師の先生方の良きパートナーとして個々の患者様に提供する。それが我々『デンタルラボア』の仕事です。

『歯』は人が身体的に成長し、さらに、生命を維持していくために不可欠なものです。我々が創る『歯』とは、言い換えれば人工臓器に値するものなのです。ここではとても肉眼では認識できないほどの精密な作業、熟練された経験と常に進化する新しいテクニックが要求されます。その細やかな作業、気配りが必要であるが故に、心には大きなキャンパスをもって壮大な絵(夢)を描くことを願い『Gross』と名付けました。

しかし、創造性に富んだ芸術作品と歯科技工とは違います。

『患者様が納得できる歯』、『実際に装着する歯科医師の先生方が喜びを感じる歯』、『造り手(歯科技工士)が誇りを持てる歯』、歯科医師の先生方、そして患者様に『Grossの歯』と云われる事がクリエイティブの証しだと思っています。

造り手の自己満足にならない事を戒めとし、『これが、マイスター工房 Gross の歯である』と云う、ポリシーとコンセプトを変えることなく、永久に無くさないでいたいと思っています。



有限会社 デンタルラボア・グロース
代表 大島一成 Kazunari Ohata ZTM

国内の臨床経験を踏まえて1985年に渡独。
ドイツ内でラボ勤務のかたわら、1989年に
日本人初のマイスター称号を取得。
帰国後、2000年 Dental labor GROSS 開設。

マイスターとは？

ドイツではマイスター制度というものが存在します。ここではまず、『その道のプロ』として職人(ゲゼレ)の国家資格を取得し、さらにその分野で十分な経験を積み一流の技術を磨くことはもちろん、一方では『その道の後身の指導』を行います。これは今を遡るまだヨーロッパが十字軍遠征を行っている頃、早くも11世紀後半から続いている伝統なのです。

また、一般教養では財務、簿記などのマネジメント一般から経済学、社会法律学、法学(民法、商法、労働法 etc.)、そして職業上の教育学に至るまでを学び、さ

らにその道の手工業のトップを目指し、一生に3回だけ受験することができる『マイスター試験』があります。

その厳しい試験に合格し、『マイスター称号』を取得し、斯界の手工業の親方として始めて開業する権利を得ることができるのです。

さて、日本医療の礎えでもあるドイツの歯科界の中で、歯科技工士は医療職のマイスター制度の範疇に数えられ公式文書では博士号の『Dr.』などと同じく略して『ZTM.』 [Zahn technikermeister (ドイツ語で歯科技工士の意味)] を冠名として表すことが義務付けられています。



デンタルラボア グロース

〒150-0042

東京都渋谷区宇田川町 38-3 柄澤ビル 2F

TEL 03-5428-2611 FAX 03-5428-2610

HP: <http://gross.jp> e-Mail: info@gross.jp

>> Metal-Ceramic



オーラルリハビリテーションを行なった前歯部の臨床症例。



非金属合金による不適合、および金属アレルギーの発疹、赤変が観察され、顎頭の顎関節門板圧迫によるクリックがあった。



セラモメタルクラウンによる再修復。

実際には過重咬合の傾向が観察されたが、患者様の経済的負担を考慮し、保険ブリッジの再修復を行なった。



1 | 補綴症例。



セラモメタル補綴には、クラウン、ブリッジを包括しますが、メタル色を遮蔽するためのオパーク材の塗布が必須であり、そのクリアランスを確保できる条件が重要となります。

使用する陶材については、天然歯様のオパール効果、蛍光性、およびハロー効果等、ある一定の条件を備えている必要があります。特に口腔内で、歯科材料学的にも安定した材料を選択することは重大な意義を有すると考えます。

また陶材のパウダーを取り扱うには、ある種の「慣れ」が重要であり、天然歯に近似した形態や機能性を兼ね備えた既述の効果を最大限に引き出すことを目的としつつ、患者様、歯科医師の先生方のニーズに沿った歯牙を創造致します。(GROSSでは、松風社の Vinntage Halo、Vintage MP を応用しております。)



Shade Eye NCC(側色器)と Eye Special II(口腔内専用デジタルカメラ)を用いたシェードテイキング。



セラモメタル+ラミネートレストレーション。



セラモメタルクラウン、ブリッジ+ラミネートレストレーション。



AGC ガルバーノフレーム上のセラミックス
 術後・術前。
 (Vintage Halo 陶材使用)



モデル上に観察されるホワイトニングを考慮した
 AGC ガルバーノフレーム上の、セラミックス最終
 補綴物の製作。



口腔内装着直後。



AGC ガルバーノフレーム上のセラミックス
 術後・術前。



スマイルライン。



術前の口腔内歯牙の色調は A4 より濃いため、
 ホワイトニングを施し、旧 CR を再修復する。



明度の相違；
 通常のセラモメタルの明度と
 比較して、AGC ガルバーノ
 フレーム上のセラミックスの
 明度は非常に高い。



AGC ガルバーノ・エレクトロフォーミング・システムとは、イオン交換によって、支台歯上に 0.2mm~0.5mm の純金フレーム (Au: 99.98%) を製作するものです。金メッキの厚いものと考えれば理解は容易ですが、イオン交換液はアンモニアが主体で人体に有害な物質を使用していないことが、この AGC ガルバーノの特質です。

また純金フレームの有する高い明度が、上部構造であるセラミックス材に反映することによって明るく、可及的に天然歯に近似した審美性を達成します。





セラミックスインレー 術前・術後。



上顎全前歯部の補綴。(Inceram & Vita α)



上顎全前歯部の補綴。(Inceram & Cerabian)



パナソニック社ナノジルコニアによる臨床例。
 白歯部は全てナノジルコニア、小白歯部には
 インプラント埋入が行なわれている。



3M ESPE LAVA Scan ST

3M ESPE LAVA フレームの例



3M LAVA 削り出し〜マージン調整；
 削り出し後にスプルーをカットし、支台歯への
 マクロスコープ下でわずかな修正を行なうが、
 殆どの場合、調整無く良好な適合性が得られる。
 右はマージン調整後。



ジルコニアフレーム上へ Vintage
 ZR を全装し、完成させる。

歯科市場への酸化ジルコニアの登場により、莫大なフレームの強化が図られるとともに、術者には CAD/CAM SYSTEM に関する臨床上の経験値、知識における知見が問われることになるでしょう。

機能性については勿論、オールセラミックスの審美性に勝る補綴物を探すことが難しいと言えます。

また歯科技工界では、若い歯科技工士の約 8 割が離職している現状です。CAD/CAM SYSTEM の導入によるデジタル情報社会の構築、そして何よりも「歯科技工学」に精通した歯科技工士の育成は重要であると考えます。

>> Implant



ITI Solid Type のインプラント。
 (AGC 使用)



アクセスホール付き上部構造体。

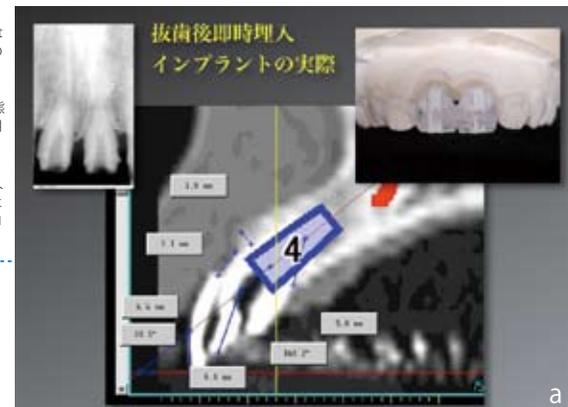
Ceramage (ハイブリッドレジン) によるアクセスホール部の閉口。



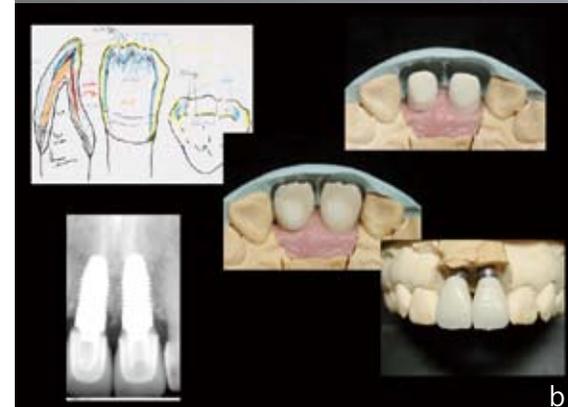
元来、インプラントとは「植える」という意味で、文字通り人工歯根をヒトの顎の骨に移植する治療のことです。1952年にスウェーデンのDr. ブローネマルクらの研究、「生体に対して不活性な材料(チタン)を用いることによって、インプラントと骨が直接強固に結合し、インプラントが体外へ排出されないことを発見したこと」に始まります。

また喫煙が体に良くないことは周知の事実ですが、インプラントを行うにあたっても良くないということが分かってきています。喫煙から生じる血管収縮、血流障害、白血球の機能障害などがマイナス因子となってインプラント治療に悪影響を及ぼすとされています。特に、骨再生療法や歯周組織移植術などを行う場合には、喫煙によるリスクが高まると報告されています。1993年に行われた研究によると「非喫煙者が4.7%」の失敗率だったのに対し、「喫煙者では11.3%」の失敗が見られたといわれています。特に上顎前歯では大きな実績差が認められています。

- (a) レントゲン画像、Simplant 画像を診断用とした術式の分析。
- (b) シェードテイキング、形態回復とレントゲン画像を用いた適合性の診断。
- (c) インプラント体は即時埋入オペレーションを応用したにも拘らず、2年後のリコール時の状態は良好。



a



b



c



GN1 CAD/CAM System を応用したセラミックス。
 アバットメント上にオールセラミックス上部構造体を装着する。



歯肉との疑似付着を期待し、上部構造体はチタンと酸化アルミナにて製作。
 機能的には NAT 咬合理論に基づいた咬合面を構築した。



上顎両側切歯、犬歯にチャネルショルダー、両犬歯遠心部に自家製棒状アタッチメント、左第2大臼歯にテレスコープを装備したコンビネーションデンチャー。



6~4 | 2~6、4~3 はセラモメタルブリッジ。43]、[23 にチャネルショルダー、両側外側遠心部に自家製棒状アタッチメントを装備した下顎コンビネーションデンチャー。

義歯の歴史は紀元前にまで遡るといわれているが、昨今はアタッチメント、テレスコープ、またはインプラントとセラミックス等のコンビネーションデンチャーの製作が含まれ、「クラスプの無い義歯」として、歯科分野における確固たる位置付けが構築されている。

特に困難性を伴うオペレーションが必要では無く、テレスコープ、コーヌス、リーゲルテレスコープ等には患者様におけるインプラントの禁忌症、メインテナンスの簡易性を考慮すれば、可及的に需要は伸びる可能性を秘めている。

一方ラボサイドでは、その精密な適合精度、機能運動の理解とその審美性等、包括的知見とともに高い技術力が要求される。

上顎 Raider AT、ドルダーバーと ACE 陶歯（松風社）及び Vintage AL を使用し、個性的に仕上げたコンビネーションデンチャー。
 下顎は、インプラント上にセラマージュ（ハイブリッドレジン）を用いて製作されたフルデンチャー。



前歯部インプラントを自家製ドルダーバーとして、ミリングを施す。
 (Bio Maingold; 高カレット・バイオメタル使用)。
 外冠には AGC ガルバーノを応用し、下顎フルデンチャーを製作。



人工歯排列を行なった鑲義歯。
 (松風社; ハイブリッド人工歯ベラシア使用)

完成した上下顎フルデンチャー。

>> Wax-up



NAT (自然に適ったワックスアップ) 理論に基づいた Wax-up。



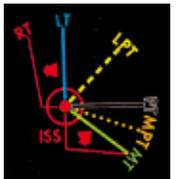
NAT 理論を提唱する Dieter Schulz 氏。
 (KavoEWL 本社にて)



咀嚼、機能運動に密接に関係する3咬頭。



機能運動経路、およびカラーワックスを応用したワックスアップ法。



オクルーザルコンパス。



NAT 理論を基礎に完成させたメタル咬合面。
 (咬合状態の詳細を確認するため、研磨後にサンドブラस्टリング)



頬側面観。



診断用 Wax up を応用したオールセラミックス症例。



矯正を伴う補綴症例を診断用 Wax-up 法によって、その指針を明確化する。



診断用ワックスアップによる咬合の再構築、および審美性の具現化。



診断用 Wax-up に沿って支台歯形成された症例。



補綴物の完成。



歯科医師の先生方との口腔内所見におけるコミュニケーションを基とし、レントゲン、MRI、またはセファロ所見などを媒体として、咬合の低位によるクリッキングや歯牙の叢生が認められる場合、全顎的咬合の改善が必要とされる。しかし、最小限度の削除量ということ为前提にどのような補綴物で理想的な口腔状態にもっていくかの考察が必要となる。この診断用ワックスアップにより、咬合の再構築、矯正を取り入れた補綴等による咬合、および審美性の改善、補綴の予測とより具体的、咬合面観の可能性が推測できるのである。

またこの状態をプロビジョナルレストレーションに置き換え、最終補綴物に寸分のくもらず反映させることも、この『診断用ワックスアップ』の目的の大きな意味の一つなのです。